



表紙について

さまざまな事業への取り組みや活動などを「四角と色」で表しました。それらが組み合わせることで、竹田印刷の「グループ力」となり、進化を続けていくことを表現しています。



印刷資材から製造工程までのすべてで環境に配慮されていることを示します。



印刷時に有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



インキ中の石油系溶剤をすべて排除し、植物油(大豆油)に切り換えた環境配慮型水なしVOCフリーインキで印刷しました。
※VOC(揮発性有機化合物:Volatile Organic Compounds)



当社はFSC®CoC認証を取得しています。(ライセンスコードはFSC®-C011109)



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような配慮や表示をしました。

CSR TAKEDA REPORT 2018



INDEX

- 1 会社概要
- 2 トップメッセージ
- 4 企業活動の基本的な考え方と事業活動
- 6 CSR活動の考え方と取り組み実績

特集

- 8 1. 最新!ネクストイノベーション
- 10 2. 竹田印刷グループの海外事業展開
- 12 TOPICS

- 14 **[組織統治]**
コーポレート・ガバナンス
- 18 株主・投資家の皆様とともに

- 19 **[消費者課題]**
お客様とともに

- 22 **[労働慣行]**
社員とともに

- 25 **[人権]**
ダイバーシティと
ワーク・ライフ・バランス

- 28 **[公正な事業慣行]**
サプライヤーの皆様とともに

- 29 **[コミュニティ]**
地域社会とともに

[環境]

- 環境活動
- 30 マネジメントシステムの状況
- 31 環境保全の状況
- 33 印刷物製造上の環境対応
- 33 竹田印刷の認定状況

■ 編集方針

本レポートは、竹田印刷における2017年度のCSRに関する取り組みを、より多くのステークホルダーの皆様にご覧いただけるよう制作・発行しました。

当社の基幹事業である印刷事業は、市場が大きく変化しています。その中で当社は名古屋証券取引所市場第二部の上場に加え、今回東京証券取引所市場第二部に上場いたしました。当社を取り巻く環境が大きく変わり、今まで以上に社会的に責任ある行動が求められています。

こうした状況の中で、CSR活動は当社の企業活動そのものであるという考え方から、働き方改革をはじめ当社が事業活動を通じてCSRを実践している姿をわかりやすく伝えるように心がけました。

また、本レポートは当社社員のCSRに関する意識を高めることも目的の一つとしています。CSR活動の主な担い手である社員の活動に焦点を当てて編集し、自分たちの仕事で社会全体にどのような影響を与えているかについて自ら考えるきっかけとしました。

是非、ステークホルダーの皆様にご一読いただきますとともに、当社の今後の活動の参考とさせていただくため、添付のアンケート用紙をご利用いただき、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

● 報告対象組織
竹田印刷株式会社
(一部、竹田印刷グループの情報も含んでいます。)

● 報告対象期間
2017年4月1日～2018年3月31日
(一部、期間外の情報も含んでいます。)

● 参考にしたガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
「ISO26000(社会的責任に関する手引)」

● 発行時期
2018年6月
(次回発行予定2019年6月)

● お問い合わせ先
竹田印刷株式会社
経営統括本部 CSR推進部
TEL:052-871-6460

● 免責事項
本レポートには、竹田印刷および竹田印刷グループの過去と現在の事実だけでなく、公開日時における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

会社概要 Company Profile

2018年3月31日現在

> 竹田印刷グループネットワーク



会社概要

社名	竹田印刷株式会社 (英訳名 TAKEDA PRINTING CO.,LTD.)
本社	名古屋市昭和区白金一丁目11番10号
創業年月	1924年(大正13年)1月
設立年月日	1946年(昭和21年)11月16日
資本金	19億3,792万円
社員数	連結1,089名 単体580名 ※役員、臨時社員を含めず記載しています。
株式上場	東京証券取引所市場第二部 [証券コード 7875] 名古屋証券取引所市場第二部
単元株式数	100株
決算期	3月31日

事業所

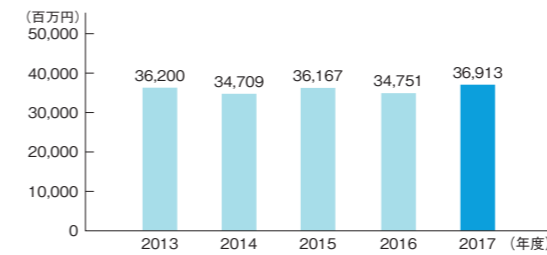
- 本社・中部事業部
本社工場
高辻工場
テクノセンター
物流センター
スタジオACE1
小牧物流センター
- 関東事業部
越谷工場、鳩ヶ谷工場
- 関西事業部
太田工場
PODセンター(第二ビル)

竹田印刷グループ

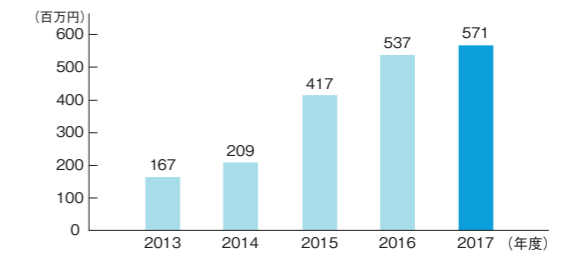
- 株式会社光文堂
- 東海プリントメディア株式会社
- 株式会社プロセス・ラボ・ミクロン
- 東京プロセスサービス株式会社
- 日栄印刷紙工株式会社
- 株式会社光風企画
- 株式会社ウィルジャパン
- 株式会社メディカルインテグレーション
- 株式会社トープロケミカル
- 上海竹田包装印務技術有限公司
- 大連光華軟件技術有限公司
- 富来宝米可龍(蘇州)精密科技有限公司

業績概要(連結)

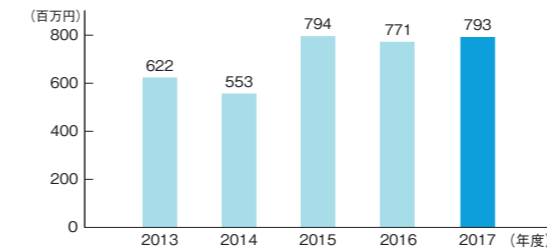
● 売上高



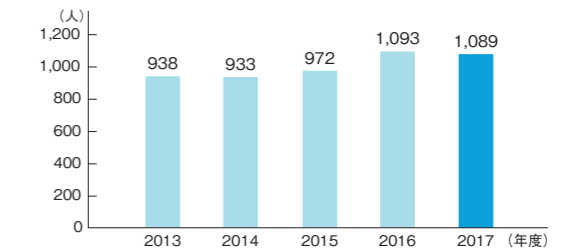
● 親会社株主に帰属する当期純利益



● 経常利益



● 社員数



竹田印刷グループは、 お客様にとっての「価値」を創り出し、 お客様と共に発展していきます

竹田印刷グループが、2024年の創業100周年を見据え、
昨年制定いたしました「お客様の圧倒的サポートを得るワンストップソリューションを提供し、
ロイヤルカスタマー比率を高め続ける」には、お客様にとっての価値を創り出すこと、
あるいは増やしていくことが、今後の竹田印刷グループにとって最も大切であり、
それにより当社もお客様とともに発展 (WIN-WIN) していきたい、
という強い思いが込められております。



おかげさまで竹田印刷は、2018年1月26日に、念願の東京証券取引所市場第二部への上場を成し遂げることができました。これもひとえに、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様のご理解・ご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。今後、東証上場会社にふさわしい会社となるべく、一層精進しさらにレベルアップして、皆様のご期待に沿えるよう努力してまいります。

お客様からの「圧倒的サポート」を目指して

お客様にとっての価値を創り出すためには、ITが高度に発達した現代社会においても、まずは基本に立ち返り、お客様のビジネスモデルや置かれた状況を深く理解することが最も重要であると考えております。その上で、お客様のご要望にことごとく合わせ込んだ

ソリューションを開発し、リーズナブルな価格でご提供することによって「圧倒的サポート」をいただくこと、そしてそのようなお客様の比率を増やし続けていくことが、今後当社が目指す方向です。

事業の状況

印刷事業については、お客様の課題解決のため、システム開発/物流/データの収集・分析/事務局運営/販促イベント一括請負などを組み合わせたワンストップソリューションをさらにレベルアップし、お客様にとっての価値の創出・増大に取り組んでまいります。

物販事業については、印刷の量が減少し続ける環境のもと、全国のお客様1社1社に対してきめ細かく、品質/環境/効率においてメリットのあるご提案を行ってまいります。

半導体関連マスク事業については、竹田印刷/プロセス・ラボ・ミクロン/東京プロセスサービスのグループ3社の持つ、製造・販売ネットワーク/技術/ノウハウを結集して、総合マスクメーカーとして、お客様のニーズに迅速に、高いレベルでお応えできるよう取り組んでまいります。

「全社員総活躍企業」に向けて

上記のすべての活動のベースとなる「人」への取り組みについては、女性社員活躍のための環境整備はもちろんのこと、全社員がいそいそと働ける職場づくりのため、男性社員の意識改革や全階層に対する教育機会の充実に加え、スマートワークや健康経営など、働き方改革にも積極的に取り組んでまいります。

CSRレポート2018では、これまでの、CSR活動、コーポレートガバナンス、各ステークホルダーとの関わり、各事業部の活動、ダイバーシティとワークライフバランス、環境活動に加え、当社が次世代の柱とすべく注力している新しい事業や、海外事業についても詳しくご紹介し、さらなる内容の充実を図りました。

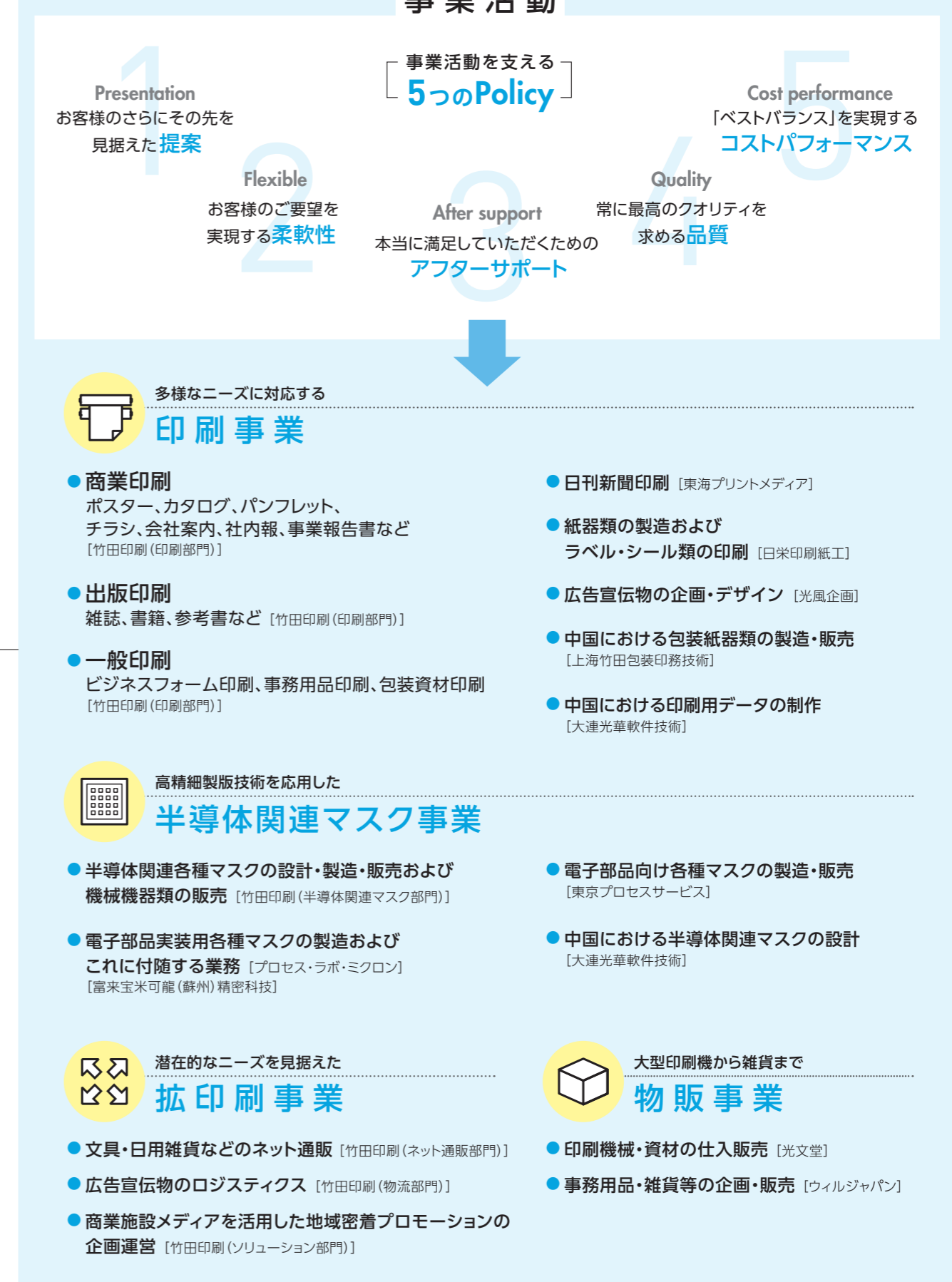
今後の継続的改善のため、アンケート用紙をご用意いたしましたので、お気づきの点がございましたら、何なりとご指摘いただければ幸いです。

今後とも、竹田印刷グループに対し、引き続きご指導ご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 山本真一



事業活動



TMS (竹田マネジメントシステム) の基本的な考え方

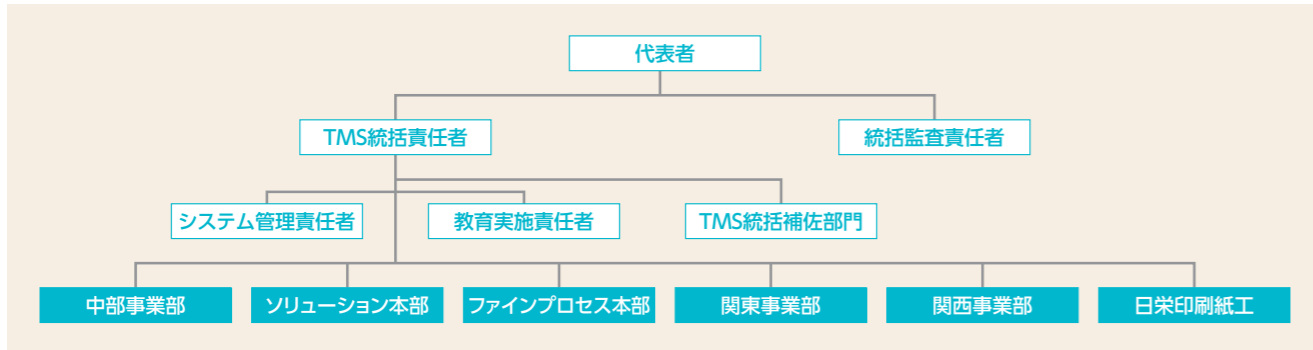
竹田印刷では2016年4月より、ISOの3つの規格9001 (品質)、14001 (環境)、27001 (情報セキュリティ) およびJIS Q15001 (個人情報保護) のマネジメントシステムを統括して、TMS (竹田マネジメントシステム) として運用をスタートしました。

中部・関東・関西の3地区を6つのブロックに分割し、各ブロック単独でもマネジメントシステムが運用できる組織体制を構築しました。

統括責任者の下、毎月開催される全体統括会議において、各ブロックからの報告と各責任者からの通達を行い、運用・管理をしています。



TMS (竹田マネジメントシステム) 組織体制図



竹田マネジメントシステム基本方針

私たちは、品質、環境、情報セキュリティの活動に対し、竹田マネジメントシステムを確立し、企業活動を通じて社会への貢献を目指します。

a) 品質

いつもお客様の立場から企画・提案を考え、独自の手法で品質の向上並びにミスの削減に努め、お客様の期待に応えるファーストコールカンパニーを目指します。

b) 環境

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、限りある資源確保のために資材や生産エネルギーの有効的な活用と廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルに努めます。そして、気候変動の緩和及び適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を含め環境保全意識の向上を図り、環境への負荷を減らす取り組みを積極的に行い、環境汚染の予防に努めます。

c) 情報セキュリティ

適用範囲の全ての情報資産を脅威から保護するため、マネジメントシステムを確立し、その導入、運用、監視、見直しを実施することでリスクを適切に管理します。

d) 教育・訓練

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に対して教育・訓練を定期的に行い、すべての人々がレベルアップに取り組み、お客様をはじめ利害関係者の信頼に繋がります。

e) 順守

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々は、関連する法規制、業界規範及び、お客様の要求事項を順守し、本方針を維持するために策定された手順に従い、行動規範とルールを守ります。

f) 継続的改善

重大な障害または災害から事業活動が中断しないように、予防及び回復手順を策定し、定期的な見直しをいたします。また、適宜、環境の変化に応じた見直しを実施し、維持及び継続的に改善を行います。

g) 周知

本方針を文書化し、啓発活動を行い、竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に周知するとともに社内外に公表します。

2016年4月1日
代表取締役副社長 木全 幸治

2017年度 TMS マネジメントプログラム (主な取り組みと実績)

区分	目的	実施項目・実績	掲載ページ
風土習慣	社員の習慣・行動の強化 会社の理念をよく理解した上で、全社的視点で判断し、行動する	・マネジメントプログラムの目標を達成するため、各ブロックでTMS推進活動を実施した ・ほとんどの部署で目標を達成することができた	▶ 7P
イノベーション	BPOを含むお客様の販促支援 企画、提案、ソリューション営業、新規開拓で新たなお客様満足創造する	・積極的な提案活動でお客様満足度アップに取り組んだ ・お客様に新たなサービスの事例紹介をし、新規受注ができた	▶ 8・9P
	お客様満足向上 お客様満足度アンケートの分析とフォローアップを実施する	・昨年度のお客様満足度アンケートのフォローアップを行った ・今年度のお客様満足度アンケートの結果をフィードバックしてさらなる改善につなげた	▶ 19P
作業環境	セキュリティ事故対策 セキュリティ関連の取り組みの再強化を図る	・ダミーメールの配信によるメール開封訓練で注意喚起を行った ・報告すべきセキュリティ事故は発生しなかった	▶ 16P
	品質不適合・苦情の半減 再発防止策や品質計画に基づき、流出する不適合製品を防止する	・再発防止実施項目を決めて、品質管理レベルの向上に取り組んだ ・不適合の発生件数を半減させる目標は達成できなかった	▶ 20P
職場環境	階層別教育システムおよび社員教育の取り組み 外部・内部教育を含めた教育体制を確立する	・外部研修や社内研修を実施して人材のスキルアップを図った ・年間教育計画に従って実施することができた	▶ 23P
	全社員活躍のための諸活動の継続 ノー残業デーや定期推進会議を実施する	・社員満足度調査を実施して職場環境の把握に取り組んだ ・定期的なノー残業デーの実施は行ったものの、一部社員で残業時間の多い月があった	▶ 26P

2018年度 TMSマネジメントプログラム

活動のステップを向上させるため、ISO26000 (社会的責任の手引き) の中核主題を新しい活動の枠組みとして、プログラムを設定する予定です。

CSRカレンダー (主な取り組み)

	キャリアアップ	社会活動	マネジメントプログラム進捗評価	外部審査・内部監査
4月	新人研修/内部統制勉強会 上期目標設定個別面談	春の交通安全週間	第4四半期評価	
5月				
6月		5S強化週間		FSC認証維持審査
7月	TMS全社勉強会		第1四半期評価	内部監査員勉強会
8月				TMS内部監査
9月	新人フォローアップ研修	秋の交通安全週間		品質工程監査
10月	上期評価/下期目標設定 個別面談	5S強化週間	第2四半期評価	ISO外部審査
11月	TMS全社勉強会	避難誘導消火訓練		
12月				
1月			第3四半期評価	品質工程監査
2月				TMS内部監査
3月	TMS全社勉強会/改善提案選考会 下期評価個別面談			マネジメントレビュー

※内部統制監査は通年で実施

最新! お客様への価値を創造しつづける
ネクストイノベーション

Next innovation

竹田印刷は、印刷を通じて培ってきたノウハウを工夫・改善・応用し、さまざまな領域においてお客様のご要望に応えるソリューションを提供しています。これからも、印刷の枠を超え、お客様のビジネスパートナーとしてお役に立てるよう努めていきます。

Business Process Outsourcing
BPO 事業

竹田印刷では、お客様のさまざまな業務を請け負うBPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)事業を積極的に展開しています。請け負う業務範囲は、単純な作業代行から事務局代行、そしてそれらをより効率的に運営・管理するシステム開発まで多岐に渡っています。

当社は情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)を取得しており、BPO事業においても同様のマネジメントシステムで管理しています。特にお客様から預かる大切な情報に対しては万全の体制・設備を用意し、お客様のお役に立てるように、あらゆるご相談に対応しています。



Logistics
ロジスティクス 事業

竹田印刷のロジスティクス・サービスは、製品の保管や管理だけではなく、業務効率化によるコストダウン、販促力アップへと導く総合的なサポートなどで、お客様から高い評価をいただいています。

現在、中部地区で拡大しているサービスを関東地区でも強化するため、鳩ヶ谷工場を改修し、2018年度より鳩ヶ谷ロジスティクスセンターがスタートします。敷地面積約560坪を有効活用し、関東市場でもお客様の販促支援を強化します。

Electronic Commerce
ネット販売 事業

竹田印刷は2011年6月から通販ビジネスを開始し、今では複数のネット店舗を運営、アイテム数も10万点を超えるまでになっています。基幹業務である印刷ビジネスと異なる事業は、今までお客様にご提供できなかった新しいソリューションサービスを生んでいます。

お客様のネット通販(EC)事業に関する各種ご相談対応やオリジナルノベルティのご提供など、お客様のお役に立てる活動を広げています。



Visual Solutions
映像 ソリューション

デジタルサイネージをはじめ、VRコンテンツ、イベントツールなど利用環境や目的に合わせて、さまざまな映像ソリューションを提供します。



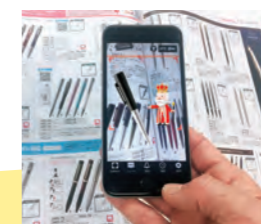
デジタルサイネージ
 クラウド型デジタルサイネージでさまざまな情報を大画面に表示します。リアルタイムにコンテンツを更新し、「今この場所で欲しい情報」を届けます。



VRコンテンツサービス
 360°全天球カメラを使って制作したVRコンテンツで、工場見学や社員教育用のトレーニングが、いつでもどこでも行えます。



会議ソリューション
 テレビ会議システム・電子ホワイトボードで遠隔地との質の高いコミュニケーションを実現します。映像を共有し双方で書き込みができるため正確な情報共有を図ることができます。



ARサービス
 ポスターやパンフレットにスマートフォンアプリをかざすことで、デジタルコンテンツを楽しむことができます。



イベントソリューション
 紙に描いた絵が動き出すコンテンツや、体を動かし直感的にプレイするゲームなどの参加型アトラクションツールです。商業施設・店舗のイベントで集客効果を発揮します。

世界で活躍する企業へ 竹田印刷グループの 海外事業展開

Overseas Business Development

竹田印刷グループは、近年、海外におけるビジネスの場が格段に広がってきました。さまざまな国や地域に対してグループ力を活かしながら、よりきめ細かく、かつダイナミックな海外展開を進めています。海外拠点の「今」を現地から紹介します。

上海竹田包装印務技術有限公司

主要な活動

当社は、中国国内に製造拠点があるさまざまなメーカー様（自動車部品、食品、蒸留酒など）向けに、印刷・包装材の販売を、また日本を含む海外向けには、ガラス製品や文具、ノベルティ関係の輸出販売を行っています。近年では、印刷・包装関係のみならず、環境装置メーカー様向けに装置用缶体の販売を行っており、お客様のニーズに合わせてさまざまなサービスをご提供しています。



今後の展開

現在、お客様から包装箱やダンボール箱関連のニーズが増えており、同時に新規受注のための営業活動にも力を入れています。今後3年で現在の売上高を2倍に増やす目標を掲げています。

会社概要

[設立] 2003年10月
[資本金] 54万米ドル
[社員数] 45名
[所在地] 上海市松江工業区松勝路736号
[主な業務内容] 中国における包装用印刷物の企画・販売

社員紹介

課長 陸燕娟
(営業)



自動車部品メーカー様、食品メーカー様の担当で、機動力に定評があります。部下の良き手本となっています。

大連光華軟件技術有限公司

主要な活動

当社には主にカタログやチラシなどの印刷データのデザイン・制作を行っている「DTP室」と、半導体パッケージ等のCAD設計を行っている「設計室」の二つの部署があります。どちらの部署も日本企業向けのデータ加工業務を行っており、竹田印刷と連携を取りながら、質の高い制作・設計を心がけています。今後も、品質を第一に考え、お客様満足度向上に向けて取り組んでいきます。



今後の展開

2018年度はDTP室と設計室を拡大し、質・量ともに、大連光華の対応力を強化したいと考えています。また、システム開発やBPOといった新規事業も視野に入れ、さらなる発展と成長を目指します。

会社概要

[設立] 2005年7月
[資本金] 40万米ドル
[社員数] 12名
[所在地] 大連市高新技術産業園区软件园東路21号12号楼701C-2
[主な業務内容] 中国における印刷物のデザイン・制作、半導体パッケージ等の設計

社員紹介

主任 井琳琳
(DTP室)



入社以来、チラシの紙面づくりを中心に業務を行っています。責任感が強く、皆に慕われる存在です。

富来宝米可龍(蘇州)精密科技有限公司

主要な活動

当社は蘇州と広州の2ヶ所に製造拠点がおり、電子部品実装業界向けに、高品質・高密度メタルマスクや周辺搬送キャリア等を提供しています。また、中国の半導体業界向けに、日本本社工場で製造されるバンプマスクや、ガラスマスク等の高品質製品を輸入・販売しています。自動車、スマートフォン、産業機器などの高技術分野へ「最高品質」の製品を提供し、電子産業の製造技術アップに貢献しています。



今後の展開

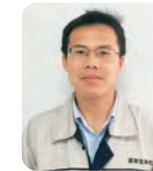
メタルマスクは中国における品質No.1メーカーの位置づけを維持し、半導体および電子部品実装業界に、搬送キャリア、マスク洗浄液、マスク検査機等の、より豊富且つ競争力がある製品化の拡大を目指します。

会社概要

[設立] 2008年11月
[資本金] 1億8千万円
[社員数] 40名(うち17名は広州分公司)
[所在地] 蘇州市蘇州工業園区星漢街5号
[主な業務内容] 中国におけるメタルマスク、キャリアなどの設計・製造・販売、同類商品の卸売、輸出入業務など

社員紹介

主任 朱峰
(営業)



大学を卒業後、当社に入社。データ編集から、手配、営業まで行える、マルチプレイヤーです。

半導体関連マスク事業の海外展開

世界中で求められる竹田印刷グループの製品

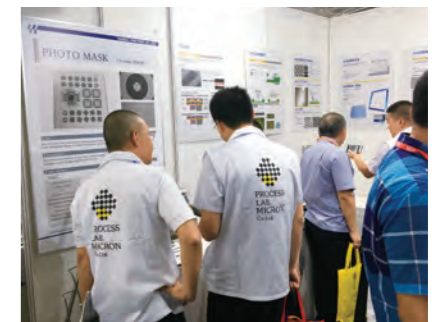
竹田印刷グループの竹田印刷、プロセス・ラボ・ミクロン、東京プロセスサービスにおいて製造・販売を行っている、主に電子部品の製造に使われる各種マスク(回路原版)は、電子部品メーカー様の世界中の工場で使用されています。近年では自動車の通信機器化や、スマートフォンなどの情報機器の高性能化に伴い、各種マスクに求められる技術レベルも一段と高くなっています。

今後も竹田印刷グループの製品が、世界のエレクトロニクス産業で、なくてはならない存在であり続けられるよう、高い品質の製品・サービスを提供し続けていきます。

NEPCON SOUTH CHINA 2017 PLM蘇州との共同出展

2017年8月29日(火)~31日(木)に中国 深圳市において開催された「NEPCON SOUTH CHINA 2017」へ、グループ会社の富来宝米可龍(蘇州)精密科技有限公司と共同出展しました。近年エレクトロニクス業界のグローバル化が著しく、特に中国や台湾などの近隣アジア諸国には業界大手が集中しています。その中でも開催地の深圳市は、「中国のシリコンバレー」とも呼ばれ、エレクトロニクス業界において世界的にも注目されている都市です。

3日間の開催期間中は連日大盛況で、世界的なメーカーから中国ローカルメーカーまで幅広い面識を得ることができました。



2017年度 | 主な活動

TOPICS 1 東京証券取引所 市場第二部へ上場

竹田印刷はこれまでの名古屋証券取引所市場第二部に加え、2018年1月26日に東京証券取引所市場第二部に上場しました。上場日当日、東京証券取引所での上場セレモニーでは上場通知書が贈呈され、上場記念の打鐘などが行われました。

当社は、これからも株主様をはじめ、お客様そしてその先のエンドユーザー様の豊かな未来を実現するため、さらなる事業展開を推し進めていきます。



上場記念の打鐘

贈呈式

TOPICS 2 2017年度企業広告

竹田印刷では新聞などに掲載する企業広告について、基準となるデザインを年度で統一しています。2017年度は「人、まち、社会に、輝くチカラを。」というキャッチコピーと、街をイメージした柔らかいタッチのイラストを用いて、当社の柔軟性とお客様に寄り添い応えようとする姿勢をアピールしてまいりました。

このデザインは、2017年11月に開催された「メッセナゴヤ2017」の当社出展ブースやご来客の方へのノベルティにも活用しました。



TOPICS 3 関西事業部 本部移転

【関西事業部 新オフィス】〒540-0011 大阪市中央区農人橋1-4-34 信金中央金庫ビル8F・9F

関西事業部の営業活動においては、大きく2拠点（八尾および大阪オフィス）ありましたが、大阪オフィスが活動領域の急速な拡大に伴い手狭になっていることと、部門間での連携が取りづらくなっていることから、2017年7月18日に本部機能と営業拠点を集約し、新たに大阪市内に本部を移転しました。

新しいオフィスを構えるにあたっては、竹田印刷全体のテーマでもある『働き方改革』も視野に検討し、オフィス内にリフレッシュスペースを設け、BGMを流して作業効率向上を図るなど、これまでにない働く環境づくりを目指しました。

印刷業界全体が大きく変化している中、よりスピーディーでより高品質な心の込められたサービスの提供に努めていきます。



TOPICS 4 越谷工場に新型輪転機を導入

越谷工場にB縦半裁両面4色刷オフセット輪転機を新設し、2017年11月より稼働を始めました。オペレータールームの設置による防音やルーム内の空調管理により、製品の品質を担うオペレーターの作業環境に配慮しています。

また、新台に装備された全自動版替機能は、版交換時間の短縮による生産性の向上と、安定した取り付け精度による印刷品質の向上に大きな効果をもたらしています。今後も常に改善しながら、お客様に満足していただける製品を提供していきます。

B縦半裁両面4色刷オフセット輪転機
オペレータールーム

TOPICS 5 出展イベント

メッセナゴヤ2017 2017年11月8日～11日(ポートメッセなごや)

竹田印刷のブースは、中部事業部若手営業社員が中心となって、企画コンセプト立案・ブース発注・ツール制作・アテンドなどの計画から運営までのすべてを行いました。

今回は、当社の経営理念である「Hard+Soft+Heart」から「Heart」をテーマとし、当社の企業姿勢を象徴した世界観でブースを展開しました。また、交通広告や配布用ノベルティ等による集客プロモーション活動を戦略的に実施し、昨年度の約1.8倍のお客様にご来場いただきました。

会場への交通機関
「あおなみ線」に掲出した広告

防犯防災総合展 in KANSAI 2017 2017年6月8日～9日(インテックス大阪)

竹田印刷が出展した「コンパクトガイド」は、携帯性・検索性・保存性に優れた特許取得済みの商品です。欲しい情報がすぐに見つかるインデックス機能付きで常時携帯できることから、防災防犯ツールとして大きな反響をいただきました。これからも当社は、人の役に立つ新たなツール開発に力を注いでいきます。



第47回 国際電子回路産業展(JPCA Show 2017) 2017年6月7日～9日(東京ビッグサイト)

竹田印刷は、グループ会社のプロセス・ラボ・ミクロンと共同出展し、新規開発品(はっ水仕様スクリーンマスク)のパネル・実物展示によるデモや各種フォトマスクのパネル・実物展示を行いました。また海外来場者の皆様に対するキャパシティも広がり、当社商材を幅広くアピールすることができました。

2018年9月に開催される「第1回 名古屋ネプロコンジャパン」にも共同出展を予定しており、今後も国内外のお客様に対し、積極的に当社の技術力をアピールしていきます。



コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

企業の社会的責任を果たし持続的に成長するため、経営の透明性と健全性の確保、迅速な意思決定と適切な事業遂行、法令順守と倫理の確保等に向けて組織管理体制の整備に取り組んでいます。また、コーポレートガバナンス・コードの各原則を竹田印刷の実状に即して対応し、実効性の高いガバナンス体制の実現に取り組んでいます。

取締役会、役員体制

竹田印刷の取締役会は社内取締役8名、社外取締役2名(2018年3月末時点)で構成しています。

社外取締役は、高い見識と豊富な経験を有し、独立役員要件を満たしているため、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しました。これにより、公正な経営監視機能の実現を図っています。

定時取締役会ほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況の監督等

を行っています。業務運営に関しては、グループ全体の中長期経営計画および年度計画に基づき、各社が年度予算を策定し、進捗状況の確認をしています。

また当社では、執行役員制度を採用しています。さらに、主要グループ会社の代表取締役を主なメンバーとするグループ会社連絡会を原則月1回開催し、適宜経営状況のモニタリングを行っています。

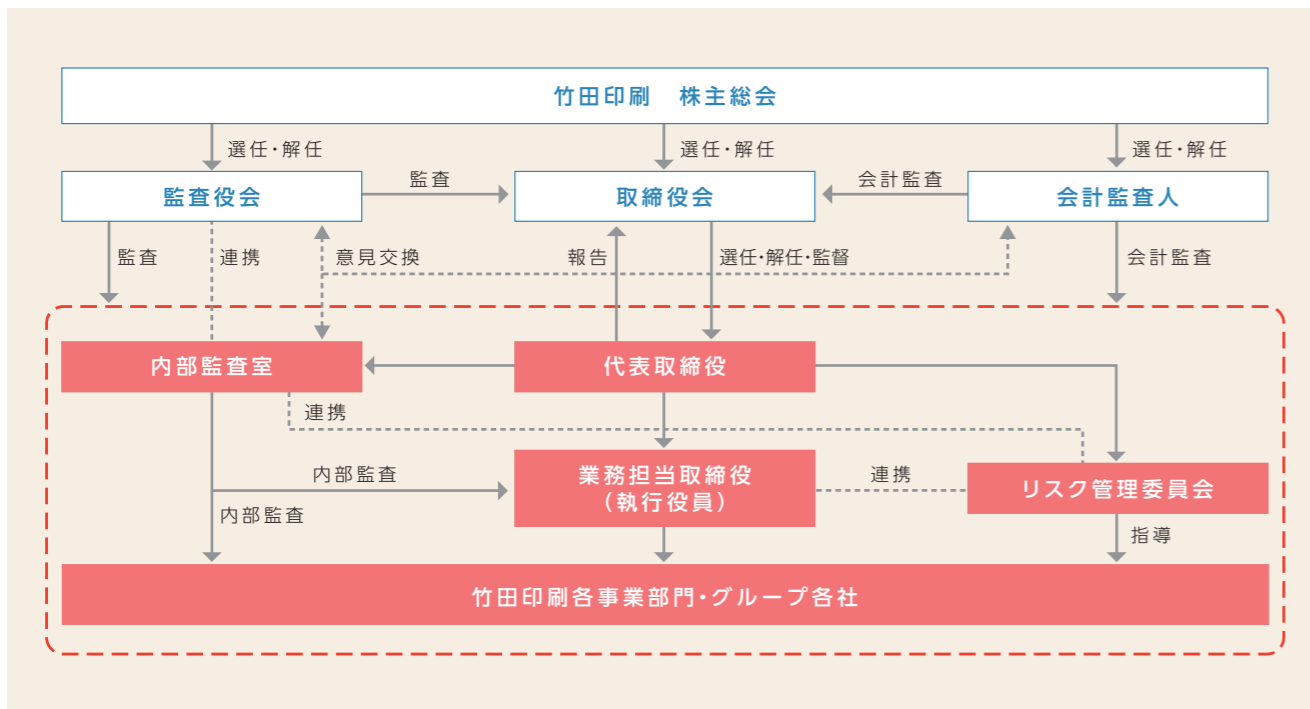
監査役、監査体制

竹田印刷では、監査役3名(2018年3月末時点)のうち半数以上である2名の社外監査役を置き、取締役会の職務執行について監査しています。

社外監査役は、高い見識と豊富な経験を有し、独立役員要件を満たしているため、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しました。これにより監査役会の独立性と、公正な経営監視機能の実現を図っています。

さらに社長直轄の内部監査室(2018年3月末時点専従者2名)は、各事業部門の業務処理の適切性等を定期的に監査しており、監査役会と連携しながらコンプライアンスの徹底を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システム

「内部統制システムの基本方針」、「財務報告にかかる内部統制の方針」に従い、適正な業務遂行の実現を図るため、全社統制・業務処理統制の仕組みの文書化、リスクの統括的な管理体制、情報セキュリティ体制等を整備・確立し、厳格に運用しています。

財務報告に係る内部統制の有効性評価のため、グループ全体での内部統制の運用改善活動を推進しています。

社外取締役メッセージ

改革・改善への取り組みや意識が浸透した今、さらなる「信頼」と「価値」を高められる企業に

近年、社会の変化に伴い、企業の役割や責任について、一層厳しい目が向けられるようになって参りました。2015年、コーポレート・ガバナンス・コードが施行されて以来、竹田印刷に於いても、さまざまな観点から改革・改善が行われてきました。その取り組みと意識は、会社幹部はもとより、社員全体に浸透してきていると感じています。その中で、今後も独立役員として「法令順守」「企業統治」の観点から、また国内外の変化への対応について、率直に意見を述べさせて頂く所存です。当社は2024年に創業100周年を迎えますが、培われた「信頼と実績」、そして「会社の価値」をさらに高めて、引き続き株主、社員をはじめ、ステークホルダーの皆様への十分な配慮が行われてゆくよう、見守って参りたいと思います。



社外取締役 奥村 隆夫

略歴

昭和45年 4月 日本特殊陶業株式会社入社	平成14年 12月 欧州NGK株式会社出向
昭和53年 11月 米国NGK株式会社出向	平成15年 6月 日本特殊陶業株式会社取締役
昭和62年 9月 欧州NGK株式会社出向	平成18年 6月 同社常務取締役
平成10年 2月 日本特殊陶業株式会社 自動車関連事業部営業本部 海外市場販売部長	平成19年 6月 同社顧問
平成13年 10月 英国NGK株式会社出向	平成24年 6月 当社社外監査役
	平成27年 6月 当社社外取締役(現任)

不断の变革と素早い決断を実現するための積極的なガバナンスの維持

社外取締役の果たすべき役割は、独立性を保ちながら会社の経営を監視し、適切な意見を述べることにあります。私は特に、法的な観点に重点を置いてこの役割を果たしたいと思えます。人口減少、高齢化、デジタル化などが進む中で竹田印刷やグループ各社が持続的に発展していくためには、社員・株主・取引先などステークホルダーの利益実現をめざした不断の变革と素早い決断が不可欠です。そのために必要となる積極的なガバナンスが当社グループ全体で維持できるよう、引き続き努めていきます。



社外取締役 堀 龍之

略歴

昭和57年 4月 弁護士登録
昭和57年 4月 林法律事務所入所(丸の内総合法律事務所に名称変更)
平成26年 1月 丸の内総合法律事務所代表弁護士に就任(現任)
平成28年 6月 当社社外取締役(現任)

コンプライアンス

「竹田印刷グループ行動規範」の制定、コンプライアンスに関する研修の継続的な実施等により、全社的にコンプライアンス（法令順守）に対する意識の向上、浸透を図っています。また「公益通報処理制度」、「内部情報管理規程」に基づき、企業倫理・法令順守を徹底しています。

反社会的勢力との関わりを一切排除するため、お客様やサプライヤーの皆様等との間で各種契約書や覚書を取り交わしているほか、管理体制として「反社会的勢力対応規程」を定めています。

また、各種法令に抵触しないよう社員研修を行い、違法行為の未然防止を図っています。

II リスクマネジメント

「リスク管理規程」に基づき設置しているリスク管理委員会では、グループ全体のリスク（コンプライアンス、経営戦略、業務運営、環境、災害等）を網羅的・統括的に管理するとともに、「関係会社分科会」「営業分科会」「IT分科会」等の分科会を設けて、組織や業務内容により異なるリスクを洗い出し、低減する活動を行っています。

II 事業継続計画(BCP)への取り組み

災害などの発生時でも、社員およびその家族の安全を守り、迅速な復旧を図って重要業務を継続するために事業継続計画(BCP)を策定しています。

災害時を想定し、緊急対策本部組織や、生産・お客様ごとの対応ステップ等について詳細で現実的な計画を定めているほか、災害時や緊急時で電話が繋がりにくい場合にも利用できるインターネットを介した社員の安否確認システムを導入し運用しています。安否確認システムは定期的に通信訓練を実施しています。

II 情報セキュリティ

全社員に配付した「電子情報セキュリティハンドブック（第2版）」、社内報「広報TAKEDA」の「情報セキュリティ通信」、ダミーメール訓練や全社員向け教育等により、情報セキュリティに対する社員の注意喚起に努めています。さらに、ICカード社員証による入退室管理によって、オフィスエリアの物理的セキュリティを強化するなど、入退室の管理からサーバやデータの管理まで、あらゆるシーンでのリスクを想定した対策が施されています。

また、竹田印刷は万全のセキュリティ体制が高い評価を受け、さまざまな守秘印刷物の受注実績があります。守秘印刷物の業務に携わる社員は最小人数に限定して作業に従事し、関係者のみが入室できる機密エリアで作業を行っています。

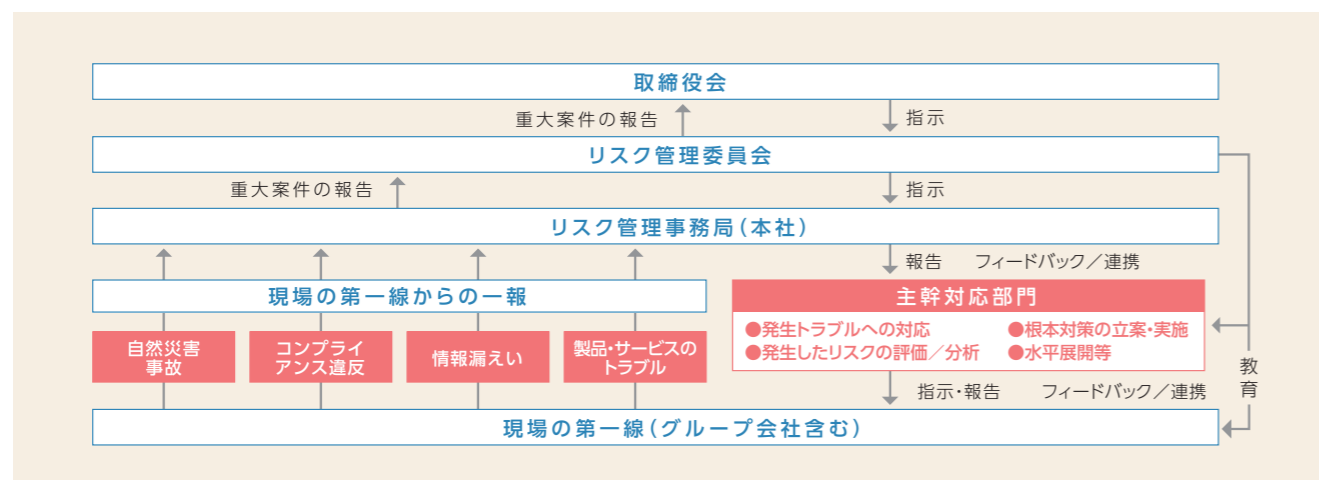
守秘印刷物に関しては、原稿の受け取り方法から損紙の廃棄処理方法まで細部にわたる特別な作業手順を確実に実行するとともに、作業場の24時間監視カメラや通用口への警備員の配置など厳重なセキュリティ管理で、お客様の安心にお応えしています。

竹田印刷は企画・デザインから印刷・加工までのすべての工程で確実な情報保護をお約束するため、ISO27001の認証取得をしています。

適合規格 / ISO27001:2013
 認証取得日 / 2015年10月
 認証登録番号 / 10553-02
 認証機関 / インターテック・サーティフィケーション株式会社



リスクマネジメント体制図



II 個人情報保護

竹田印刷は個人情報の保護を目的として「個人情報保護方針」を制定し、JIS Q 15001に基づく個人情報保護マネジメントシステムを構築・運用しています。お客様の大切な個人情報を守るために、さまざまな取り組みを行い、「プライバシーマーク」の付与認定を受けています。

また、長年の取り組みを認められ、2017年11月20日にJIPDEC(一般財団法人 日本情報経済社会推進協会)より感謝状を授与されました。

適合規格 / JIS Q 15001:2006
 認定日 / 2005年11月
 登録番号 / 19000167(07)
 指定審査機関 / 一般社団法人中部産業連盟

代表取締役副社長 木全 幸治

プライバシーマーク
 貢献事業者表彰

お客様の信頼に応えるため
 プライバシーマークに取り組み続けます

プライバシーマークの認定を取得してから7回目の審査を更新し、このたび認定機関より表彰を受けました。これを機に新たな気持ちで仕組みのブラッシュアップを図り、お客様から揺るぎない信頼を得るために邁進したいと思います。

今から14年前の2004年春に、当時の社長からプライバシーマークの認定を取得するように指示が出されました。早速、推進委員会を発足して準備を開始しましたが、着手した頃は要求事項がなかなか理解できず、戸惑いの連続だったことを覚えています。さらにメンバーで勉強会を開催するも、手順書の作成やリスクの抽出も思うように進まない状況でした。しかし、会議を重ねるごとに「今まで印刷会社として当然のように行ってきたこと」をやればよいことに気が付きました。

本来、印刷会社が集まってくる情報は世の中に発表されていないものが多く、例えば、自動車メーカー様の新車の写真やカタログスペック（諸元表）、銀行様の新任頭取の挨拶状、各種メーカー様の新製品の情報、各種試験問題の原稿など挙げたらきりがありません。普段から高い機密性が求められており、お客様の監査を受けてマル秘指定印刷工場の認定を

いただいているところもあります。そういった業務をトラブルなく納品することで、お客様から高い評価を受け信頼されているのです。まさに竹田印刷の歴史であり、諸先輩方々が幾多の困難な壁を乗り越えて基盤を築かれたおかげと感謝する次第です。ですから、もしも情報が流出したら会社が存続できなくなるという意識が社員一人ひとりの体にしみついています。そのような意識やこれまでの作業実績を棚卸して仕事の流し方を整理すると、どこに問題があり何を注意してマニュアルを作り込めば良いかが見えてきました。当時のことが懐かしく思い出されます。

時代は流れ、仕事の内容が煩雑化しリードタイムも短くなったことに加え、Web化も進むなか、個人情報がネットワーク上でやり取りされ、コンピュータで大量に加工・処理されています。そのうえ、ハッキングが日常的に行われ、さまざまな手口の不正アクセスもあります。

当社はこれからもお客様に安心してご発注いただけるよう、「世の中に開かない鍵は無い」を肝に銘じてセキュリティの強化を図り、企業の「身だしなみ」としてプライバシーマークに取り組んでいきます。

II 知的財産に関する活動

竹田印刷は企画・デザイン等のクリエイティブを含めた企画提案型の営業活動を行っていますが、知的財産等の法的問題のない提案を行うことが必要不可欠です。第三者の

知的財産権を侵害することの無いよう事前にチェックする仕組みを構築し、社員に対しては、情報ツールや社員教育で、常に知的財産権に対する注意喚起を行っています。

株主・投資家の皆様とともに

基本的な考え方

竹田印刷グループでは、適時適切な情報開示の重要性を認識し、関連法規に従って主体的・継続的なIR活動に取り組んでいます。IRイベントへ定期的に参加する等、さまざまな場とメディアを利用して株主・投資家の皆様と対話を図り、当社の経営状況、成長戦略等についてプレゼンテーションをしています。

利益分配に関する基本方針

竹田印刷グループは、株主の皆様への安定的な配当を基本としながら、業績、配当性向、内部留保等を総合的に勘案し、配当を決定しています。中間配当と期末配当の年2回の配当を基本方針とし、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会により決定します。

なお、2016年度の期末配当金は、1株につき8円(中間配当金6円を加えた年間14円)とする議案が2017年6月27日の定時株主総会において決議され、実施されました。

株主優待

竹田印刷グループは株主優待として、2017年は、3月末日で1,000株以上保有の株主様に、新潟県魚沼産コシヒカリの新米を収穫に合わせて11月初旬にお届けし、9月末日で100株以上保有の株主様には、自社製美術カレンダー「徳川美術館の名品」を12月初旬にお届けしました。

なお、2018年より株主優待制度が変更になり、3月末日で100株以上保有の株主様にはクオカード1,000円分を、1,000株以上保有の株主様にはクオカード1,000円分に加えて、美術カレンダー「徳川美術館の名品」または「新潟県魚沼産コシヒカリ新米5kg」のどちらかを選んでいただけます。



美術カレンダー「徳川美術館の名品」

新潟県魚沼産コシヒカリ

名証IRエキスポ

2017年7月に開催された名証IRエキスポ2017(会場：名古屋吹上ホール、主催：名古屋証券取引所)に出展しました。

上場企業や証券会社併せて122社が出展し、来場者は昨年を上回る8,400人を記録しました。竹田印刷ブースにも多くの皆様にお越しいただきました。当社は毎年ご好評いただいている「源氏物語絵巻」をモチーフとしたブースを出展。株主優待の1つでもある美術カレンダー「徳川美術館の名品」も展示し、お越しいただいた投資家の方々に、当社の現状と将来の展望をお伝えすることができました。

なお、集計アンケート枚数(447枚)に200円を乗じた89,400円を、2017年7月に発生した九州北部豪雨への義捐金として、日本赤十字社を通じて寄付しました。



来場者の皆様に事業内容や今後の見通しについて説明しました。当社ブースは、今年も徳川美術館様にご協力いただきました。



株主・投資家の皆様には適時開示情報を含めた有用な情報を当社Webサイトでも公開しています。
ホームページアドレス <https://www.takeda-prn.co.jp/investor/>

お客様とともに

基本的な考え方

竹田印刷は1924年(大正13年)の創業以来、「Hard+Soft+Heart」でお客様満足度No.1企業を目指すという経営理念に従い事業を展開してきました。ハード・ソフトとともに、社員全員が心(ハート)をこめて業務に取り組むことで、お客様、そしてお客様に関わるすべての人々にご満足いただけるものと考えています。

お客様満足向上のための継続的な改善

竹田印刷は、お客様満足の根本はお客様の抱える課題を解決することと考え、その基盤ともいべき製品・サービスの質の向上に万全を期しています。

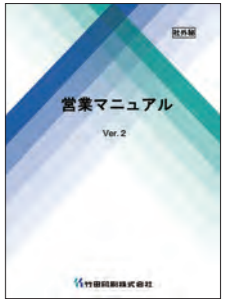
II お客様満足度アンケート

お客様のニーズを知るためにお客様満足度アンケートを実施し、お客様から直接いただいた貴重なご意見やご要望を竹田マネジメントシステムの活動に組み入れ、さらなるお客様満足度向上に役立てています。



II 営業マニュアルの改訂

竹田印刷では、営業職が備えるべき意識や規範を示すために全営業部員に配布している「営業マニュアル」を2017年に改訂いたしました。基本的な考え方や最低限のマナーを守りつつ、臨機応変に対応することを目指しています。



お客様のパートナー企業を目指して

竹田印刷は、「お客様から信頼されるパートナーとなること」を基本方針として、ご発注いただいた案件への真摯な対応はもちろん、それ以外のさまざまなご要望にもお応えしています。

II 工場見学受け入れ

お客様の新入社員や新しく着任されたご担当者の研修として、製版工程や印刷・製本工程等の工場見学を受け入れています。

竹田印刷では枚葉印刷機、輪転印刷機等の多種多様な印刷設備を、グループ会社の東海プリントメディアでは新聞印刷の様子をご見学いただけます。

II お客様向けプライバシーマーク勉強会

お客様のプライバシーマーク取得に向けた社内勉強会にお招きいただき、竹田印刷CSR推進部が講師を務めました。お客様より、内部講師の教育では身が入らないとの相談を受けて今回の勉強会となりました。個人情報保護法の改正点や最近起きたセキュリティ事故などの事例を合わせてお話し、お客様から感謝の言葉を頂戴しました。

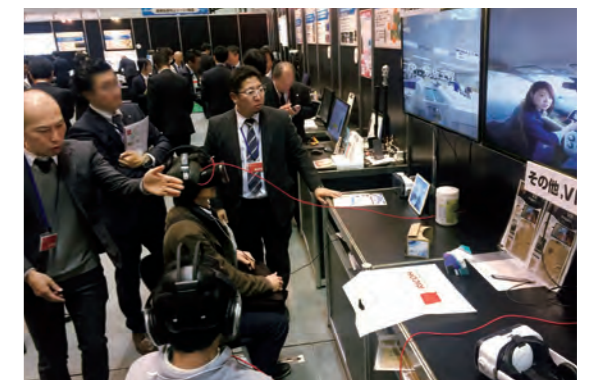


勉強会の様子

II リコージャパン様の展示会へ出展

2016年よりビジネスパートナーとして協業しているリコージャパン株式会社様の展示会へ参加しました。竹田印刷からは、映像コンテンツサービスのブースを出展、またVRセミナーのプレゼンターを務めました。

2017年12月に開催された中部地区の「RICOH Value Presentation 2017」、関東地区の「RICOH Innovation Saitama 2017」において、当社ブースへ多数の来場者の方にお立ち寄りいただき、当社の映像ソリューションを知っていただく機会となりました。双方の拡販に向け、今後も活動を続けていきます。

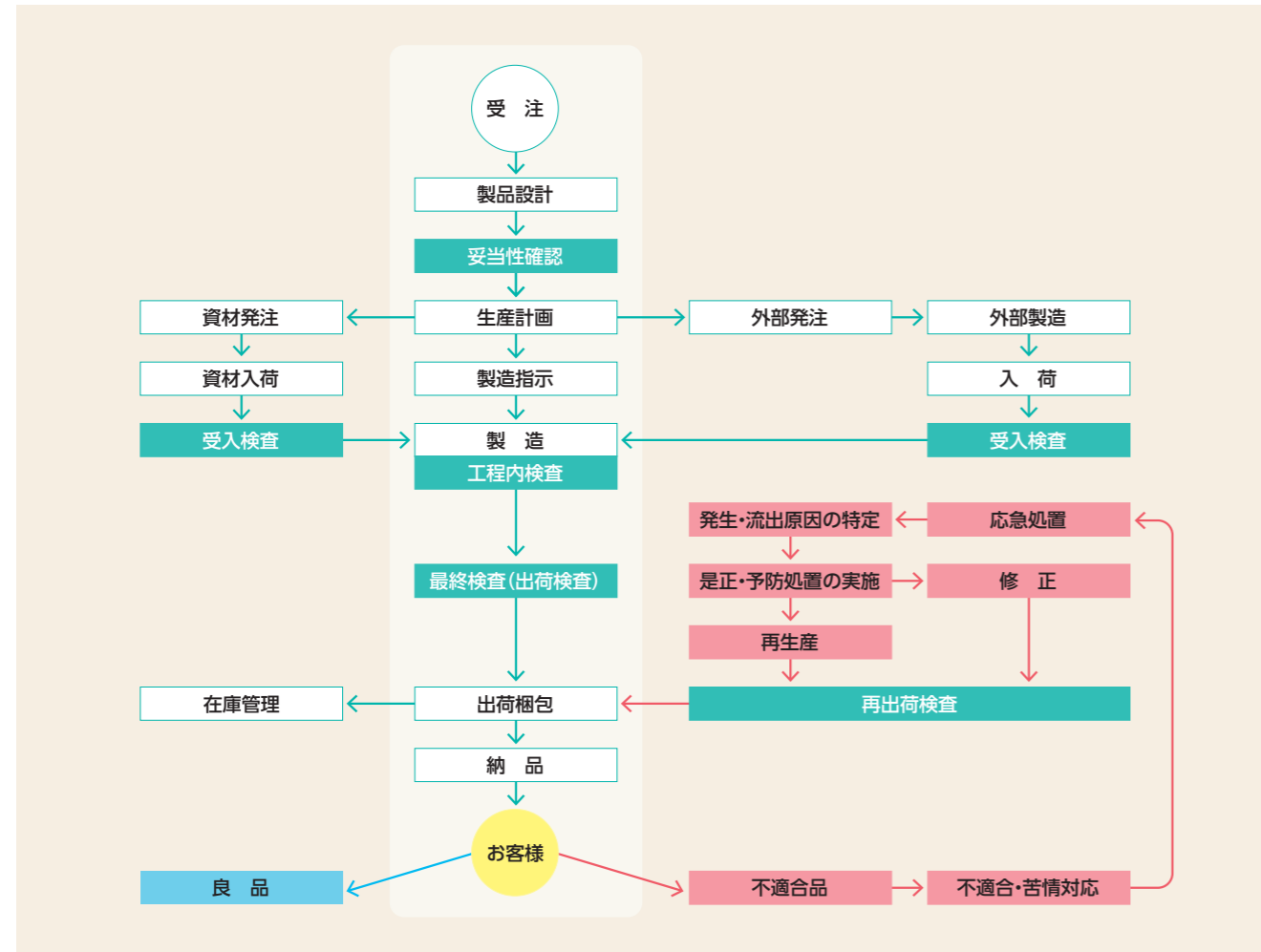


展示会の様子

品質に対する基本的な考え方

竹田印刷では最新の検査設備を導入し、厳しい製品検査を実施しているだけでなく、ISO9001に基づいて品質保証体制を整備し、品質管理に万全を期しています。さらに、品質の向上を図るため、継続的な改善を行い、常に信頼される製品を提供することにより、お客様の繁栄に貢献したいと考えています。

品質管理概要



ISO9001 認証取得

竹田印刷は企画・デザインから印刷・加工までのすべての工程で安定した品質の提供をお約束するため、ISO9001の認証取得をしています。

適合規格 / ISO9001:2015
 認証取得日 / 1999年11月
 認証登録番号 / 07965-A
 認証機関 / インターテック・サーティフィケーション株式会社



品質教育

高品質な製品は高い品質意識を持った人材なくして成り立ちません。そのため社員教育に力を注ぎ、どうしたらお客様に喜んでいただける製品になるのかを常に考え、品質管理に取り組んでいます。また、品質トラブルの事例を全社に展開し、組織全体の品質意識の向上につなげています。

品質検査機器・設備

プリプレス部門

■ 紙面比較検査システム (Hallmark Center)

確認が完了した編集データの出力紙と、試し刷りの印刷用データを比較し、差異の検出を行っています。これによりデータ変換による文字化けなどがいないかを確認しています。

■ デジタルデータ比較検査システム (Ken2Pa!)

試し刷りで訂正があった場合に、新版と旧版のデータを比較することにより、訂正箇所の確認を行っています。

■ デジタル校正ソフトウェア (Proof Checker PRO)

編集データの訂正前後の照合に使用しています。文字列、フォント、文字サイズ、色調など訂正箇所を編集データ同士で比較し確認を行っています。

■ カラーマッチングシステム (PRIMOJET SOFT-XG)

印刷機とインクジェット出力のカラーマッチングを行うことで、印刷工程とプリプレス工程の色の整合性を取り、品質を安定させます。

印刷部門

■ 品質管理装置

印刷紙面全体をスキャナで読み取り、前回の印刷物や色調原稿と比較した補正データを印刷機に送信することで、常に安定した品質の印刷物を提供します。

■ 紙面検査機

印刷中の紙面を読み取り、表裏同時に全数を基準紙面と比較検査することで汚れや色ムラを検出します。

加工部門

■ 製本検知器

中綴じ製本機ではCCDカメラにより、落丁、掛け落ち、鞍乗せ間違いの検知を行っています。また、厚さやズレ・タレ検査装置、針金検知器などにより不適合品の流出を防止しています。

半導体関連マスク事業の更なるお客様対応のため、新フォトマスク描画装置を導入

エレクトロニクス業界のさらなる高精度化に追従するため、2017年5月にハイデルベルグ・インストルメンツ社製のフォトマスク描画装置を導入しました。

このフォトマスク描画装置は最少線幅で「0.75 μm*」までの微細描画に対応でき、描画スピードも既存描画装置と比較し約2倍に向上します。

また、グループ会社の東京プロセスサービスにも同描画装置を導入し、グループ力を活かした対応でお客様のニーズに応えていきます。

*0.75 μmは0.00075mm



装置搬入の様子

フォトマスク描画装置

社員とともに

基本的な考え方

社員が働きやすい環境と組織の整備を進めるとともに、さまざまな教育制度により社員の能力向上やキャリアアップを推進しています。また、福利厚生などの諸制度により社員や家族の生活をサポートすることで、社員が意欲を持って働き、健康で豊かな生活を送れるよう、ライフスタイルに合わせた制度を整えています。

社員を支える各種制度

II 人事関連制度(人事評価・マイスター認定・資格取得)

人事評価では、社員の総合力を伸ばすため、役割や階層ごとの基準設定に加え、成績・サービス・能力の個人評価を取り入れています。

さらに、特定業務での技能保有者に与えるマイスター認定制度や、能力向上・自己啓発などを促進させる資格取得奨励制度により、社員の技能やモチベーションの向上を図っています。

II 改善提案制度

業務におけるさまざまな問題点や改善点について、各部門で改善提案活動を行い、改善提案委員会で審査の上、優秀な提案については表彰しています。2017年度は1,090件の改善案が提出されました。

また、半導体関連マスク部門では毎年3月に「QCサークル活動発表会」を実施しています。

II 社員表彰制度

会社への貢献に報い、さらなる意欲を喚起するため、年1回の社員表彰を行っています。前年度の優秀な成果により会社の業績等に貢献した社員への優良社員表彰や、長年勤続に職務に精励して社業発展に尽くした社員への永年勤続表彰を行っています。



優良社員表彰者との記念写真

VOICE

優良社員表彰受賞者の声

中部事業部 ファインプロセス本部
FP製造部スクリーンマスク課長
2000年4月入社
杉浦 竜一郎



優良社員表彰で2度目の「功労賞」を受賞させていただきました。今回も周囲のご指導・ご協力があったからこそ受賞できたと感じております。課員と一体となって取り組んだだけでなく、技術部との協同開発・改善もあり、お客様に喜んで使っていただける商品が完成し、採用されたことで、会社からも評価されました。表彰式では非常に感慨深い思いで受賞しました。表彰制度は、私たちのモチベーション向上にもつながっています。私は「この賞が欲しい！」と公言して自身の活力にもしてきました。今後もまた表彰していただけるように会社にご貢献していきます。

豊かな生活をサポートする福利厚生

竹田印刷では、社員やその家族の方々が豊かで活気ある生活を送ることができるように、さまざまな福利厚生制度を充実させています。

主な福利厚生

- 社会保険・労働保険
- リゾートクラブ・スポーツクラブの法人利用
- 慶弔見舞金制度
- スポーツ・文化イベント等の鑑賞券・招待券の配付
- 退職金制度
- 社内クラブ活動の補助
- 従業員持株会制度
- 介護サービス・葬儀サービスの法人利用 など

人材育成に関する活動

竹田印刷では人材育成の一環として、さまざまな研修や勉強会を実施しています。

II 営業研修、勉強会の実施

営業力の向上を図るための勉強会「竹田アカデミー」を毎週定期的で開催しています。

具体的には、実際に受注につながった「成功事例発表会」、社内専門スタッフによる「社内スタッフ勉強会」、協力会社ブレインの外部講師による勉強会のほか、各プロジェクトリーダーによる「プロジェクト報告会」やベテラン社員主催によるテーマを決めた討論会等を開催しています。



役職者研修の様子

II 階層別研修

各階層別に必要に応じた研修を行っています。2017年度は管理職向けの役職者研修を行い、マネジメントスキルの向上とともに、コンプライアンスへの意識付けをしました。

新入社員に対しては、ビジネスマナーなど社会人としての基礎知識を習得する研修を行うとともに、入社半年後の新入社員フォローアップ研修では、半年間の振り返りとともに「これから成長していくために」をテーマにグループワークを行いました。



新入社員フォローアップ研修の様子

II メンター制度

新入社員教育、若手社員の育成サポート、社内コミュニケーションの活性化を目的に「メンター制度」を新たに導入しました。メンター制度とは、若手社員に対し、直属の上司以外の先輩社員が、専属の育成サポート担当となり、面談を通じて若手社員の課題や悩みの解決、仕事上の知識やスキル習得の支援を行う制度です。

竹田印刷においては、新入社員(メンティ)1名に対し、年齢差5歳程度の先輩社員(メンター)1名と、勤続10年程度の中堅社員(シニアメンター)1名の3人組で、2ヶ月に1回の面談を実施しています。



メンティ・メンター初回面談の様子

VOICE

メンター制度を受けた社員の声

メンター/
山口さんの声

人と話すことが好きだったのがメンターになったキッカケでした。最初は自分に務まるか不安でしたが、メンティの田岡さんの悩み解決の力になれるよう、身構えずに話せる雰囲気づくりを心掛けてコミュニケーションをはかりました。おかげで違う部署同士の交流機会も生まれ、お互いの勉強の場にもなりました。

メンティ/
田岡さんの声

メンターの山口さんには気を遣いすぎずに、日頃感じるようなことありのままの考えや悩みをお話してきました。特に仕事の面で専門技術の知識や疑問点など、気軽に質問して助けていただいています。普段関わりの少ない部署の方の色々な考えを聞けて、良い制度だと感じています。



中部事業部 印刷製造本部
プリプレス部プリプレス課
2008年4月入社

山口 知美
(写真左)

中部事業部 営業本部
営業第3部1課
2017年4月入社

田岡 利彩子
(写真右)

労働安全に対する基本的な考え方

竹田印刷では、社員の安全と健康に配慮し、労働災害の防止や心身の健康の維持増進に努めています。会社・労働組合から選出の委員、産業医で構成される「安全衛生委員会」を設置し、職場環境の改善・整備や労働災害の防止活動、通勤災害撲滅活動を行っています。

災害防止への取り組み

II 越谷工場、無労災2,400日達成

2018年3月に越谷工場は無労災継続2,400日を達成しました。引き続き3,000日に向けて事故・ケガのないように努めます。

II 避難訓練の実施

避難訓練は事業部ごとに行っています。本社・中部事業部では、2018年3月、就業時間内に2階南側付近から出火したという実践的な想定で訓練を行い、各職場から正面玄関駐車場スペースに避難しました。また、毎年4月には新入社員を対象に、訓練用消火器を使った初期消火訓練を行っています。



安全衛生への取り組み

II ストレスチェック実施

竹田印刷では安全衛生委員会制定の「ストレスチェック実施内規」に基づいて、2017年11月～2018年2月に社員のストレスチェックを行いました。

II メンタルヘルス相談窓口を設置

日常生活におけるさまざまな不安や悩みについて、気軽に相談できる窓口を設置しています。外部の専門機関に委託し、プライバシーは厳守しています。相談は無料で、家族の利用も可能です。

II ハラスメント相談窓口を設置

竹田印刷は「ハラスメント防止規程」により、パワハラ、セクハラに関する相談・苦情等に対応する窓口を設置しました。専任の担当者がプライバシーの保護に十分努めた上で迅速に対応します。

交通安全への取り組み

II 自転車安全運転講習会を実施

2017年10月より名古屋市で自転車損害賠償保険等への加入が義務化されたことや、自転車による通勤災害が発生したことから、8月に名古屋市昭和警察署 交通課による「自転車の安全運転講習会」を行いました。講習では、自転車の安全運転について改めて認識を深めました。



映像を交えた講習の様子

II 新入社員への交通安全指導講習

2017年9月に新入社員がトヨタ名古屋教育センター交通教育研究所の安全運転指導講習を受講しました。業務運転に必要な技能と知識の向上とともに、駐車技量や車両知識などについてきめ細かく指導いただきました。



新入社員によるフルロックブレーキの実技訓練

II 優良安全運転管理者表彰

2017年5月、愛知県警察本部および愛知県安全運転管理協議会による「平成29年優良安全運転管理者等表彰式」において、竹田印刷総務部の原副部長が、優良安全運転管理者として表彰されました。



II 滝野川警察署より優良運転者表彰

東京都北区滝野川警察署より、常に交通法令を守り無事故・無違反の社員に対し、優良運転者として表彰状が授与されました。



ダイバーシティとワーク・ライフ・バランス

基本的な考え方

ダイバーシティでは、性別・年齢・障がいなど問わず、多様な人材が持てる能力を発揮してイキイキと働ける環境づくりをめざし、制度や意識改革に取り組んでいます。ワーク・ライフ・バランスでは、仕事とプライベートや育児・介護などを両立できる働き方や社員や家族とのコミュニケーション機会を増やす体制づくりに取り組んでいます。

ダイバーシティの推進

竹田印刷では、性別や年齢を問わず、すべての社員が能力を発揮し、やりがいを持って働くことができる「全社員総活躍企業」を目指し、ダイバーシティを積極的に推進しています。

II 障がい者雇用の状況

竹田印刷では、障がいを持つ方々に多様な個性や能力を活かして、さまざまな職場で活躍をしていただいています。今後も法定雇用率の達成をめざしながら、障がいを持つ方の社会的自立を支援することを目的に、障がい者雇用に取り組んでいきます。

II 定年退職者再雇用の状況

長年の経験やこれまで培われた技術や能力を、次世代へ継承するため、竹田印刷では定年退職者の再雇用制度を整えて活用しています。本人が希望し、健康な心身や意欲などを持ち、一定基準に適合した「人材」の方に、今後も活躍していただく環境を提供していきます。

II 女性活躍推進の状況

竹田印刷では、女性のキャリア形成支援や管理職への積極的登用を進めています。2017年度は、ダイバーシティを推進する外部認証の取得にも取り組みました。

女性管理者数	2018年3月現在		
	2015年度	2016年度	2017年度
管理者総数	180名	179名	171名
女性管理者数	3名	5名	6名
女性管理者の比率	1.7%	2.8%	3.5%

ダイバーシティ推進活動に対する外部認証の取得実績

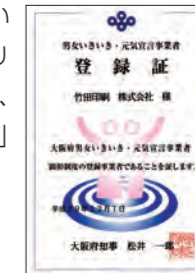
愛知県「あいち女性輝きカンパニー」

2017年4月、女性の活躍推進に向け、トップの意識表明や働きながら育児・介護ができる環境づくりなどに積極的に取り組んでいる企業として愛知県「あいち女性輝きカンパニー」に認証されました。



大阪府「男女いきいき・元気宣言」

2017年12月、男性も女性もいきいきと働くことのできる取り組みを進める活動が評価され、大阪府「男女いきいき・元気宣言」の事業所に登録されました。



大阪市「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」

2017年8月、意欲ある女性が活躍し続けられる組織、また仕事と生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)支援に積極的に取り組む企業として、「大阪市女性活躍リーディングカンパニー1つ星認証」を取得しました。



名古屋市「女性の活躍推進企業」

2018年1月、女性がいきいきと活躍できるような取り組みをしている企業として名古屋市「女性の活躍推進企業」に認定されました。(写真 P26 1)





1 名古屋市「女性の活躍推進企業」認定プレート



2 タイムマネジメント研修 (関西事業部)



3 広報による情報発信



4 小さな子どもを持つ男女社員の交流会

ワーク・ライフ・バランスの推進

すべての社員が仕事とプライベートの両立をしながら、やりがいを持って働き続けられる職場環境の整備を会社全体で積極的に進めるとともに、職場単位で仕事の進め方や働き方を見直すことで、時間外労働の削減や生産性の向上に努めています。(写真 3)

II ノー残業デーの推進

2017年2月より毎月第3水曜日を「ノー残業デー」と制定し、定期的を実施しています。また、過重労働による健康障害を防止するため、深夜残業については本人の事前申請と上長の事前承認により歯止めをかけています。



ノー残業デー啓蒙ポスター

II タイムマネジメント研修の開催

2018年2月、入社3~5年目を中心とした20~30代の男女社員を対象に、タイムマネジメント研修を行いました。時間管理と働き方改革の必要性や具体的なタイムマネジメント術について外部講師に講義いただき、受講者たちは時間管理の意識を高め、業務改善・長時間労働削減につなげていくポイントを学びました。(写真 2)



研修の様子 (中部事業部)

ワーク・ライフ・バランスを支える制度

社員のワーク・ライフ・バランス充実のため、さまざまな制度や社内規程を設けるとともに、「業務にメリハリを持ち、社員同士や家族とのコミュニケーションを深める機会を増やす」ことを方針として、働き方の見直しや長時間労働の削減等に取り組んでいます。

妊娠中の女性社員に対しては、本人と相談の上、作業制限・勤務時間短縮等を行うほか、時差出勤や休憩時間延長・回数増加、そして保健指導や健康診断時間の確保等の対応策を考慮できるよう就業規則で定めています。

また、育児休業明け社員の復職支援の一環として、仕事と育児を両立させる方法のアドバイスや意見交換ができる交流会などを開催しています。今後も、仕事と育児・介護、あるいは仕事とプライベートを両立しながら、全社員がイキイキと活躍できる制度や体制づくりに向けて、さらなる充実を図っていきます。(写真 4)

II ウェルカムバック制度

2017年11月、育児・介護等に伴うやむを得ない事情や、留学等のキャリアアップを理由に一度退職した社員を優先的に再雇用し、それまでに培った経験やスキルを活かして再び活躍していただく「ウェルカムバック制度」を新設しました。

過去に習得した知識とスキルを有する人材の確保というメリットの他、社員の多様化に柔軟に対応できる支援策の一つと位置付けています。

II 育児休業制度

2017年1月に「育児休業規程」を改定し、法定を上回る支援制度を整備しましたが、2018年1月に再度制度を見直し、育児休業期間が3ヶ月以内である場合は、最初の5日間を有給扱いとしました。このように経済的不利益を補って、育児休業を取りやすくした結果、4名の男性社員が育児休業を取得し、最長で1ヶ月間の休業取得となりました。今後も安心して育児休業を取得し復職できる環境づくりに取り組んでいきます。

II 介護休業制度

介護が必要な家族がいる社員に対して、介護離職を防止し、仕事と介護の両立を可能とするための制度を整備しています。対象となる家族の範囲を拡大したり、介護休業の分割取得を可能にしたりするなど、利用しやすく改定しました。

II 年次有給休暇取得促進

有給休暇、メモリアル休暇(対象者には事前に通知)について積極的な取得を促すとともに、気兼ねなく取得しやすい職場風土の醸成に努めています。

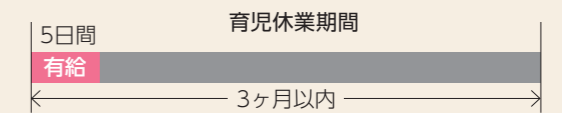
出産休業・育児休業の取得状況

制度名/年度	2015	2016	2017
産休・育児休業 (内 男性取得数)	7件 (0件)	4件 (0件)	9件 (4件)

育児休業規程の改定のポイント

男性社員の「育児休業」が取得しやすくなりました

育児休業期間が3ヶ月以内である場合は、最初の5日間を有給扱い



2017年度は4名の男性社員が育児休業を取得

II テレワークの推進

テレワーク推進の一環として、2018年2月に「在宅勤務規程」を定め、在宅勤務・モバイルワークのテスト運用を開始しました。今後の柔軟な勤務体制の実現に向けて、取り組みをスタートさせています。

VOICE

育児休業取得者の声

中部事業部 ファインプロセス本部
FP製造部 製品設計課
2001年4月入社 | 永坂 裕紀

私は息子が生まれてから、1ヶ月間の育児休業を取得しました。育児休業期間では、息子が日々成長していく時間を妻と共に過ごすという貴重な体験ができました。それと同時に、息子からのミルクやおむつ替え等の泣き声による要求は、愛しさとともに時に呆然とさせられることもあり、育児の想像以上の大変さと、妻と協力して育児に取り組むことの大切さをあらためて教えてもらいました。

今後、もっと多くの男性社員が育児休業を取得できる職場風土になることを願っています。



サプライヤーの皆様とともに

基本的な考え方

高品質な製品を提供するためにはサプライヤーの皆様のご協力が不可欠です。サプライヤーの皆様とは対等で公正な取引のもと、技術・情報の相互交流等による信頼関係を基本として良好なパートナーシップを構築し、品質向上・環境対策・コスト削減といった共通の目的・目標に対して改善策を推進して共存共栄を目指しています。

サプライヤーの皆様との関係

竹田印刷の事業活動および社会的責任の遂行には、お取引引きいただいているサプライヤーの皆様のご協力が不可欠です。紙・インキ・フィルム等の資材や印刷機器、印刷・製本加工等を取り扱うさまざまなサプライヤーの皆様との間で、当社は「CSR調達ガイドライン」を定めています。この調達ガイドラインには「コンプライアンスの順守」「基本的人権の尊重」「環境保全」「安全衛生」「適切な情報管理」「QCDと顧客満足の向上」「腐敗防止」の7つの項目を設定

しており、サプライヤーの皆様にご協力をお願いしています。また、調達ガイドラインに基づき、「購買および外部提供者管理規定」を設け、公正に審査・選定・管理をし、適正な購買・取引を行うよう努めています。

また、環境対策として当社で進めている環境負荷の少ない印刷方法に関しても、サプライヤーの皆様と連携しながら技術・製品の導入を促進しています。

品質対策懇談会

2017年8月、中部事業部において、サプライヤー様(印刷・製本・加工・物流)8社13名の方々に参加いただき「品質対策懇談会」を開催しました。

各カテゴリーにおいて直近で発生しているミスを取り上げ、対策の有効性についての協議や、同様のミスが発生する可能性の有無、万が一ミスが発生した時の対処方法などの展開を図りました。

サプライヤー様からは当社に対する積極的な要望が出され、今後の品質向上につながる価値ある意見交換や情報共有を行うことができました。そして、引き続き「竹田品質」を共に作り上げていくことを再確認しました。



品質対策懇談会の様子

サプライヤー評価

サプライヤーの皆様にご納入していただく原材料や製品加工などの品質は、竹田印刷製品の品質に大きく影響します。当社への納入品の適正な品質を確保するため、サプライヤーの皆様に対しては、対応、コスト、品質などに関して年1回チェックシートを使った評価を実施して、当社の基準を満たすサプライヤー様であることを確認しています。また、必要に応じ品質管理部門がサプライヤー様を訪問して現地での工程監査を行い、業務の見直しや改善要望を提示しています。

サプライヤーの皆様のご品質管理は、当社の品質管理の一部と考え、これからもサプライヤーの皆様とともに品質向上に取り組んでいきます。

評価項目(抜粋)

1. 品質保証に対する信頼性
2. トレーサビリティの信頼性
3. 設備および機材に対する信頼性
4. 生産(供給)能力の信頼性
5. 納期および契約内容の遵守状況
6. 緊急対応の順応性
7. 情報セキュリティ対策の状況
8. 再委託の状況

地域社会とともに

基本的な考え方

竹田印刷が持続的に事業活動を行うには、地域社会との信頼関係の構築が重要であると考え、良き企業市民として社員一人ひとりが社会活動に取り組んでいます。安心・安全な地域社会づくりのための地道な地域貢献活動を継続的に続けることで、地域の皆様との交流を深め、信頼を築いています。

名古屋少年少女発明クラブ支援

「名古屋少年少女発明クラブ」は、ものづくり愛知・名古屋における次世代産業を担う人材を育成するために、小中学生を対象にデリバリー方式でのものづくり教室や、拠点となる名古屋市科学館で各種工作教室などを開催しています。昨年名古屋で開催された「世界青少年発明工夫展2017」や「あいち少年少女創意くふう展2017」では同クラブの成果発表の場として作品などが展示紹介されました。

竹田印刷は、2007年のクラブ設立当初から趣旨・活動に賛同して支援しており、今後も次世代を担う産業界の人材育成へ協力していきます。



世界青少年発明工夫展2017

インターンシップ(就業体験)受け入れ

各学校からのご依頼のもと、就業体験(インターンシップ)を実施しています。これは採用を目的としない教育活動の一環として行っており、2017年度は高校・専門学校・大学等から9名の受け入れを行いました。製造や営業の現場での業務体験に加え、情報管理に対する意識や、社会人として必要な考え方・姿勢等について社員から学んでもらいました。



就業体験の様子

周辺清掃・地域清掃

毎月1回、会社周辺の清掃活動を行っています。特別養護老人ホームや幼稚園が近隣にあるところでは、その周辺にも力を入れ、街の環境美化に取り組んでいます。



会社周辺清掃の様子

名古屋第二赤十字病院へ寄付

竹田印刷では社会福祉事業の一環として、本社と同区に所在する「名古屋第二赤十字病院」へ地域医療活動の支援を目的に毎年寄付金の贈呈を行っています。

同病院は1914年に開設し、赤十字病院として災害医療や国際医療救済に取り組みながら、地域医療にも力を入れている総合病院です。

当社は同病院の高度で良質な医療活動とその取り組みに対して、1995年以来、毎年支援を続けており、日本赤十字社から感謝状をいただいています。



感謝状

環境活動

基本的な考え方

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、印刷工程における環境負荷低減と限りある資源確保に努めています。そのために資材や生産エネルギーの有効的な活用と廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルを行っています。また、生物多様性および生態系の保護を含めた環境保全意識の向上を図り、環境汚染の予防に努めています。

マネジメントシステムの状況

監査の状況

マネジメントシステムが適切に運用され、維持されていることを確認するため、「内部監査規定」を定め、定期的に内部監査を行っています。内部監査は原則として年2回行っていますが、重要な工程が変更となる等、統括監査責任者(P.6 TMS組織体制図参照)が必要と認められた場合には臨時に実施することになっています。

II 内部監査の監査結果状況

2017年度の内部監査の結果、全社合わせて「不適合」9件と「観察事項」や「改善の機会」として86件の指摘がありました。すべて直ちに是正処置を取り対応しました。

内部監査の傾向としては、日常業務に沿った運用の確認が重要視されるとともに、指導的コメントが増えて改善向上型の活動になっています。また、事業部を超えたクロス監査を実施し、全社的なレベルアップを図っています。

II 外部審査の審査結果状況

外部認証機関(インターテック・サーティフィケーション株式会社)による維持審査を行いました。

審査の結果、全社合わせて「軽微な不適合」1件と「改善の機会」18件の指摘がありました。指摘いただいた項目には、さまざまな内容のものがありますが、審査員の言葉から読み取った指摘事項を含め、すべてに是正処置を取り改善しました。

内部監査員の育成

竹田印刷では、現在、62名いる内部監査員の育成・レベルアップに取り組んでおり、内部監査員に対して毎年1回研修会を実施し、監査基準の徹底とレベルアップを図っています。

2017年度の内部監査員研修では、部署ごとに異なる内部監査のポイントや監査の質を向上させる「監査チェックリスト」の工夫など、内部監査員の力量アップのための教

育を行いました。また、2017年度は外部の内部監査員養成セミナーを修了した19名が新・内部監査員として任命されました。

今後も内部監査員の研修を継続するとともに、内部監査員が他組織の監査を経験することで、質の平準化と全体のレベルアップを図っていきます。

全社員教育の状況

竹田マネジメントシステムの効果的な運営を図るために、全社員に対して次のような教育を行っています。

- マネジメントシステムに対する認識を向上させる教育とともに、コンプライアンスの意識を高めリスクを回避するための教育を行っています。
- 教育実施後は、理解できたかどうか「自覚の確認テスト」にて教育効果を確認し、「教育実施記録」を保持しています。

2017年度の主な教育実施内容

2017/4月	マネジメントシステムの組織の理解	2017/10月	EMSにおける法順守について
2017/5月	FSC(CoC) 認証について	2017/11月	外部審査における指摘事項の理解
2017/6月	ISMSにおける法順守について	2017/12月	電子情報セキュリティハンドブックについて
2017/7月	改定個人情報保護法について	2018/1月	社長年頭挨拶の理解
2017/8月	ハラスメントについて	2018/2月	QMSにおける法順守について
2017/9月	インサイダー取引について	2018/3月	マネジメントレビューについて



全社員勉強会の様子

環境保全の状況

法規制の順守

竹田印刷では、環境に関する法規制を順守し環境汚染をできる限り少なくすることは企業の重要な責務との認識のもと、法的要求事項への対応実施・維持の状況を順守状況一覧表によりチェックし、順守の徹底を図っています。

法規制等の名称	該当施設および項目
環境基本法	全部署
大気汚染防止法	オフセット輪転機における乾燥装置
水質汚濁防止法/下水道法	フィルムおよび印刷版の自動現像機
騒音規制法	印刷機、圧縮機、送風機
振動規制法	印刷機、圧縮機、送風機
悪臭防止法	洗浄および検査における薬品等
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	紙くず、酸性およびアルカリ性廃液、廃油、廃プラスチック
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律	容器の再商品化義務および識別表示の義務
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	化学物質の特定および排出量の把握および届出
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	廃PCB(廃コンデンサ)
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法	営業車の使用管理計画書の作成および営業車使用管理実績報告書の作成と届出

法規制等の名称	該当施設および項目
消防法	防火設備の設置、管理および点検報告の義務
エネルギーの使用の合理化に関する法律	全部門
名古屋市長のまちづくり条例	事業活動の実施にあたり緑化の推進等に必要な措置を講ずる
名古屋市市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例	事業活動による公害を防止し、負荷を低減するため、自己の責任において必要な措置を講ずるとともに市の施策に協力する
東京都環境確保条例	ディーゼル車の排ガス規制事業者への責務
越谷市環境条例	自動車の使用者又は運転者の責務
大阪府生活環境の保全等に関する条例	事業活動による公害を防止するため、必要な措置を講ずる

化学物質管理

竹田印刷は、環境マネジメントにおける化学物質等の管理に関し必要な事項を「化学物質リスクアセスメント規定」に定め、自主的な適正管理や安全性の高い代替物質への転換を促進するとともに、化学物質による危害防止、火災予防、労働災害の防止並びに廃棄物の拡散防止に努めています。

排出ガスの予防策と測定状況

大気汚染防止法のばい煙発生施設に該当しているオフセット輪転機の乾燥装置は、定期的に年2回の排出ガス測定を実施しており、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理を行っています。

また、自動車排出ガス削減の取り組みとしては、移動に際し可能な限り公共機関を利用することや、輸送においてはモーダルシフトを活用するなどして環境に優しい交通機関の利用を促進しています。

工場排水処理策と測定状況

水質はPH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、金属含有量、有害物質等の項目を定期的に年2回測定し、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理しています。

騒音・振動の予防策と測定状況

騒音・振動を防止するために、印刷工場は建築設計の段階から二重壁・二重窓構造にし、内壁には吸音材を使用した防音対策を施しています。また、振動を防ぐ振動防止対策基礎設計の建築となっています。

騒音の測定記録については、時間率騒音レベルを求めた結果、全時間帯において規制基準値を下回りました。

廃棄物の管理・運営

事業活動の中で発生する廃棄物を適正に処理するため「環境側面特定管理規定」を定めています。廃棄物は、それぞれ種類別に保管し、管理方法を決めています。特に特別管理産業廃棄物は、水質汚濁や土壌汚染を招かないように厳しく管理しています。

また、年に1回以上は、産業廃棄物処理業者への立入り調査を行い、廃棄物の処理が適正に行われているかどうかを目視により確認しています。

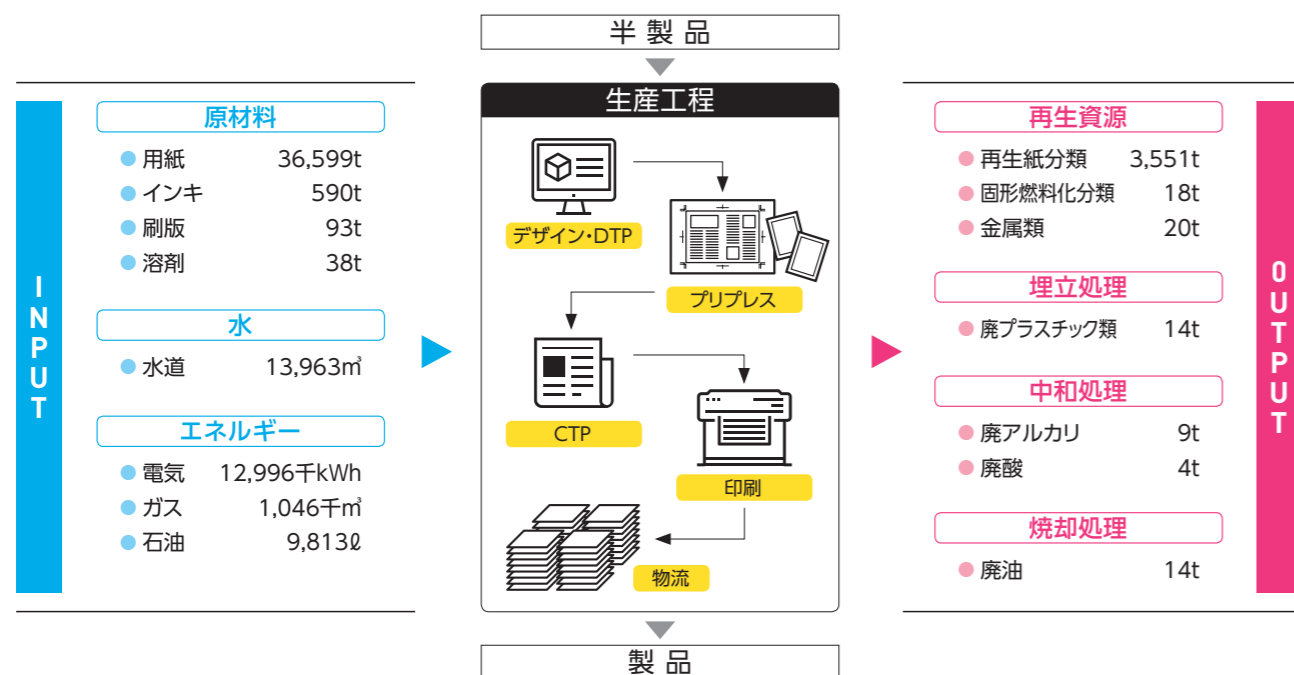


現地立ち入り調査

環境負荷の全体像

竹田印刷では「用紙・インキ等」を原材料として製品を製造しています。できる限りインプット・アウトプットデータを収集しまとめています。

II 印刷事業における2017年度の資源投入と環境への排出



グリーン購入・グリーン調達

環境活動を効果的に行うために、原材料、副資材等の購入、設備機器の導入等の際には環境に与える影響を削減するように配慮しています。また、グリーン購入を推進することは、環境負荷の低減はもとより、社員が環境へ配慮した行動を行うきっかけとなっています。例えば、社内会議

で配布する資料に関しては、事前にタブレット端末へ送信することでコピー出力を削減するなど、紙を扱う印刷会社であるからこそ用紙を大切に、環境負荷を低減する努力をしなければならないと考えています。

緊急時への準備対応

II 事故・緊急事態に対する対策

竹田印刷では、事故・緊急事態の可能性として「火事・爆発・漏洩（大気・水系・土壌）等」を想定し、発生した場合の環境への重大な影響（大気汚染・水質汚濁・土壌汚染等）を防ぎ、迅速に対応・処置するために「不適合及び緊急事態対応管理規定」を定めています。その中では、予防・初期処置および対処に必要な設備・防災備品の設置のほか、連絡網の明示・模擬訓練の実施・発生時の基本行動について定めています。

II 2017年度事故・緊急事態

2017年度における事故・緊急事態は発生しておりません。



訓練の様子

印刷物製造上の環境対応

水なし印刷

通常のオフセット印刷では、版の非画線部へインキが付着しないように、「湿し水」と呼ばれる水溶液を使用します。しかし、湿し水には、IPA（イソプロピルアルコール＝VOC揮発性有機化合物）や、H液（グリコールエーテル系の化学物質を含む）等の有害物質が多く含まれています。それに対して水なし印刷は、非画線部にインキをはじく特性を持つシリコン層を使用することにより、有害な湿し水を全く使用せず印刷を行うことができるので、廃液を出さず、環境に配慮した印刷方式といえます。2017年度には、この水なし印刷方式で29件の印刷物を製作しました。



水なし印刷機



水なし印刷方式を用いた印刷物には「バタフライマーク」を表示できます。

カーボン・オフセット

カーボン・オフセットとは、市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の人々が自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等を購入すること等により、その排出量の全部または一部を埋め合わせることを

を言います。

竹田印刷では、原料調達段階から、印刷、廃棄リサイクルの工程で発生するCO₂をカーボン・オフセットするため、温室効果ガスの排出量を算定できる仕組みを構築しています。今後も企業価値の向上と地球温暖化への対応としてお客様に強くアピールしていきます。

オンデマンド印刷の提案

通常のオフセット印刷は部数の多い印刷に適しているのに対し、オンデマンド印刷は少数数の印刷に適しています。そのため、過剰在庫により発生する廃棄のムダを削減することができます。また、オンデマンド印刷はオフセッ

ト印刷のような版が不要で、環境負荷の少ない印刷方式です。必要なものを、必要な時に、必要な数だけ、余分な印刷物を生産しないことで環境負荷の低減を図ります。

竹田印刷の認定状況

FSC® 森林認証

竹田印刷では2004年8月に、Forest Stewardship Council®（森林管理協議会）の森林認証制度において生産・加工・流通工程の管理認証（CoC認証：Chain of Custody）を取得しました。これにより、商業印刷物のCSR/社会環境報告書、会社案内、カタログ等にFSC森林認証取得の用紙を使用した場合、FSC CoC認証マークを表示することができ、2017年度には237件の印刷物に表示しました。



責任ある水資源を
使用した紙

グリーンプリンティング

この認定制度は、社団法人日本印刷産業連合会が認定機関となり、『日印産連「印刷サービス」グリーン基準』に基づき、印刷資材、製造工程、会社の取り組みすべてに対し、第三者からなる認定委員会によってグリーンプリンティング認定を行う制度です。

竹田印刷では、本社工場、高辻工場の2工場が、総合的に環境に配慮する印刷工場として、グリーンプリンティングの認定を受けています。またデジタル印刷工程も対象として、より多くの環境配慮型印刷製品に取り組み、今後も環境負荷の少ない印刷製品作りを推進していきます。



この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。